



兵庫県

HYOGO PREFECTURE

概要

兵庫県は、北は日本海、南は瀬戸内海を介して太平洋に面し、中国山地を中心とする起伏に富んだ地形、日本海型から内陸型、瀬戸内型の多様な気候といった地理的要因のもと、中山間地域と都市域を有し、古くから各地域において独自の文化が栄えていることから、「日本の縮図」とも言われています。

また、この地理的条件から、多くの生きものが東西方向に行き来するとともに、日本海と瀬戸内海をつなぐ本州で最も低い標高の中央分水界(標高95.4m)がある丹波市の「水分(みわか)れ」が、生きものの南北移動を容易にしており、兵庫県は、多種多様な生態系が県内に存在する「生物多様性の宝庫」といえます。

戦略 ～兵庫県の地球温暖化対策

本県の温室効果ガス排出量は、約73,000kt-CO₂と全国的にも大きく、産業部門の全体に占める割合が全国では約4割に対して、本県では7割近くを占めています。

そのため、大規模事業者に対する排出抑制計画の策定の義務づけや、小規模事業者に対する排出抑制計画の策定指導を行うなど、産業部門に対する取組を強化しています。また、経済的手法の削減対策である排出量取引制度では、キャップの設定によっては、CO₂削減努力をせずに排出量を売買できるおそれがあるので、大規模事業者が中小事業者に技術、資金等を支援し、追加的に削減した分を自己の削減分にカウントできる「CO₂削減協力事業」を実施しています。

家庭部門においては、2006年度の排出量が1990年度比で約2割も増加しており、家庭での太陽光発電や省エネ家電の導入促進、家庭の「どこから」「どれだけ」CO₂が排出されているのかを「見える化」し、各家庭に応じた削減対策を提案する「うちエコ診断」、イベント開催などに伴うCO₂を他の場所での削減で埋め合わせる「CO₂削減相殺制度(ひょうごカーボン・オフセット)」などを進めています。

この結果、2006年度の本県排出量は1990年度の基準年度比-1.7%ですが、2010年度には、森林吸収・京都メカニズム相当分を除いても6.3%削減の達成が見込める状況になっています。

一方、吸収源対策ともなる森林整備については、2002年度から公的関与を充実し、「森林管理100%作戦」による間伐を推進しており、CO₂吸収に寄与する県の間伐目標面積の早期達成を図るとともに、県民共有の財産である森林を守っています。

～次期地球温暖化防止推進計画の策定

2010年度には、2020年に向けた次期地球温暖化防止推進計画を策定することとしており、国の25%削減の達成に向け、実現可能な限り高い目標を設定し、施策を総動員する必要があると考えています。

このため、電力固定価格買取制度、地球温暖化対策税、国内排出量取引制度など国施策の動向や国と地方の役割分担を十分踏まえ、県独自の対策として、排出量の多い企業の取組をさらに促す仕組みやCO₂削減協力事業の普及を図っていきます。



2007年7月31日に46年ぶりに巣立ったコウノトリ



兵庫県西播磨総合庁舎太陽光発電システム



小学校3年生を対象とする環境体験事業（田植え体験の様子）

Photo Gallery ▶ [英語サイトへ](#)

<http://www.unep.org/ClimateNeutral/Default.aspx?tabid=1021>